

保育内容「表現」の指導法（音楽・身体）

授業科目	保育内容「表現」の指導法（音楽・身体）				実務家教員担当科目	-					
単位	1.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	山路 麻佳										
授業概要	<p>領域「表現」のねらい、および内容を踏まえ、子どもの感性や創造性を豊かにする音楽・身体表現活動についての理解を深める。身近なものや楽器、身体を用いた表現など様々な表現活動を実際に体験することにより音楽的スキルや表現力を身に付ける。豊かな表現活動を構成することができるようグループで教材研究を行い、子どもの発達段階に即した表現活動の指導案を作成・実践し、子どもの表現を支える保育者としての指導力を高める。</p>										
授業形態	演習		授業方法	グループワーク							
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>1. 保育内容「表現」のねらい及び内容を理解することができる。                  2. 様々な楽器の奏法を学び、表現することができる。                  3. 子どもの表現を引き出す即興演奏をすることができる。                  4. 表現することの楽しさや喜びを感じることができる。                  5. 子どもの発達段階に即した活動内容を考え実践することができる。</p> <p>子どもの発達段階に即した表現について理解し、発達に応じた表現活動を考え実践することができる。表現することへ興味・関心をもって活動することができる。</p>										
理想的レベル	<p>子どもの発達段階に即した表現について理解し、遊びや環境の中で発達に応じた表現活動を考え展開することができる。</p> <p>表現することへ興味・関心をもち、自ら表現する楽しさや喜びを感じることができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験											
小テスト											
レポート	40%										
発表（口頭、プレゼンテーション）	40%										
レポート外の提出物											
その他	20%				授業での発言など積極的な参加姿勢						
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH21312J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」のねらい及び内容を確認しておく。										1	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション										

	<p>授業の概要、評価方法について理解する。</p> <p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」における領域「表現」から、表現の意義を考える。</p>
第2回	<p>テーマ：子どもの発達に即した表現</p> <p>発達段階に即した表現について理解する。</p> <p>生活や遊びの中での音楽表現について考える。</p>
第3回	<p>テーマ：楽器を用いた表現活動</p> <p>楽器の特徴と正しい奏法について理解する。</p> <p>楽器や身近なものをを用いた音あそびについて実践を通して学ぶ。</p>
第4回	<p>テーマ：環境と表現活動①</p> <p>日常にある環境音を聴いて記録し、グループ内で共有する。</p> <p>グループでサウンドスコアを作成し、楽器や身近なものを使って表現する。</p>
第5回	<p>テーマ：環境と表現活動②</p> <p>グループで作成したサウンドスコアによる表現を発表する。</p>
第6回	<p>テーマ：オルフの音楽教育①</p> <p>オルフの音楽教育について理解する。</p> <p>模倣と問答、即興によるリズム表現を学ぶ。</p> <p>グループで言葉のリズムや抑揚から歌を創作する。</p>
第7回	<p>テーマ：オルフの音楽教育②</p> <p>グループで創作した歌を発表する。</p>
第8回	<p>テーマ：歌う表現活動</p> <p>手や身体をつかった歌あそびについて学ぶ。</p> <p>子どもの歌と歴史について学び、わらべうたの特徴と意義について理解する。</p>
第9回	<p>テーマ：音と動きによる表現①</p> <p>ダルクローズのリトミックについて理解する。</p> <p>幼児期にリトミックを取り入れる意義や特徴について学び実践する。</p>
第10回	<p>テーマ：音と動きによる表現②</p> <p>音や音楽から感じたことを身体で表現する即時反応について実践を通して理解を深める。</p> <p>動きを引き出すためのピアノ即興演奏の技能を習得する。</p>
第11回	<p>テーマ：発達段階に即した教材研究①</p> <p>0, 1, 2歳児を対象とした教材の研究</p>
第12回	<p>テーマ：発達段階に即した教材研究②</p> <p>3, 4, 5歳児を対象とした教材研究</p>
第13回	<p>テーマ：模擬保育①</p> <p>0, 1, 2歳児を対象とした音楽表現活動の内容を考え、グループごとに実践する。</p>
第14回	<p>テーマ：模擬保育②</p> <p>3, 4, 5歳児を対象とした音楽表現活動の内容を考え、グループごとに実践する。</p>
第15回	<p>テーマ：まとめと振り返り</p>

テキスト	<p>適宜プリントを配布する。 各自でファイルを用意しプリントを整理していくこと。</p>
<p>参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介</p>	<p>『平成 29 年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社 今泉明美・有村さやか『子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へー』株式会社 萌文書林 古市久子『保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現』ミネルヴァ書房 小林美実『こどものうた 100』チャイルド本社</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>授業内で課題とするレポートについては、コメントを付けて返却します。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>授業内で身体を使った表現活動を行うことがあるため、動きやすい服装で受講してください。 生活の中にある身近なものや音などに常に興味をもち、表現するとはどういったことか考え自分なりの表現というものを意識して過ごしましょう。 また、授業で扱う曲や演奏技能は繰り返し復習することにより、自分の力となり自由な表現活動を行っていくことができます。子どもに合わせた表現活動を行っていけるよう十分な練習に取り組んでください。</p>